

☎ 文書館直通 0268-67-3312

東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp



東御市文書館では、学徒動員で戦地に送り出された学生たちが戦地より、学校の恩師たちに送られてきた軍事郵便（ぐんじゆうびん）を所蔵しています。今月は、終戦記念月に因んで、「小林彦次郎先生宛軍事郵便」の中より「音楽」に関する史料をご紹介します。

【小林彦次郎先生と軍事郵便】

小林彦次郎先生（以降彦次郎先生）は、現在の田中小学校の前身である「県（あがた）尋常高等小学校」の校長先生でした。慶應3年（1867）に小県郡県村（現東御市）本海野（もとうんの）に生まれ、15歳で風声学校（県尋常高等小学校の前身）で訓導となり、長野師範学校に進み、1889～1991年に諏訪郡落合村落合小学校（富士見町立落合小学校：2013年閉校）、1892年県小学校に訓導兼校長として赴任し、18年間勤めました。現在の東御市立田中小学校の校長室には初代校長として、写真が掲げられています。

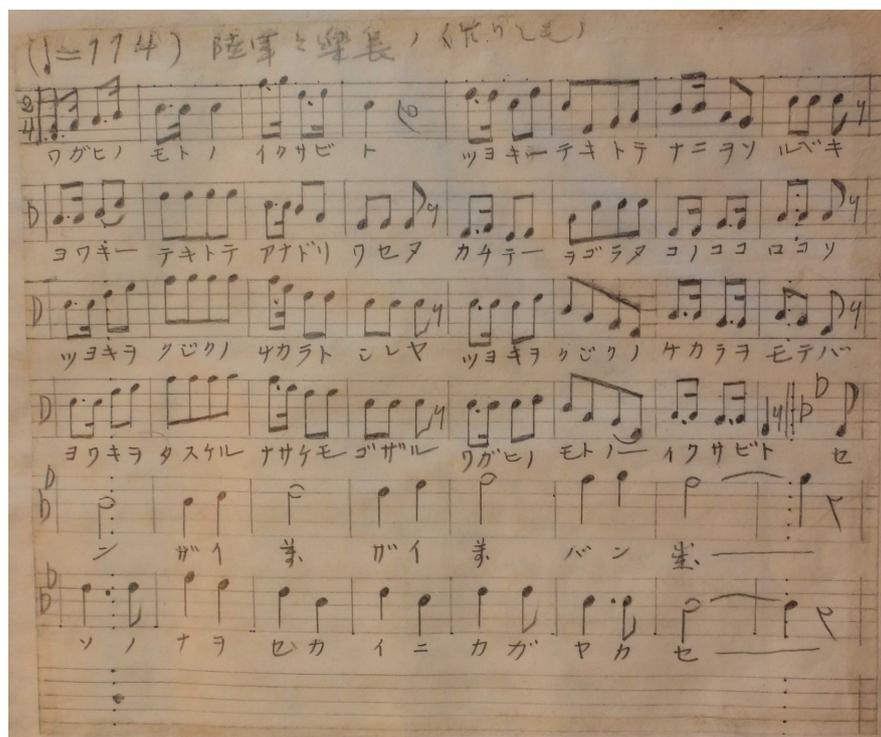
彦次郎先生宛の軍事郵便は、ほとんどが校長先生時代のもので、校長先生をはじめ学校の先生や、学校宛に、日露戦争の戦地に送り込まれた卒業生たちから送られて来たものです。

これらの、兵士となった小学校の卒業生の手紙550通を彦次郎先生は大切に保存し、丁寧にファイルにして保管していました。

このファイル3冊は、**令和3年4月に東御市文書館に寄贈され、当館にて保管・展示しています。**これを読むと、彦次郎先生が軍事郵便をくれた卒業生に、返信をこまめに送っていたことや、卒業生たちから慕われていたことも伝わってきます。

また、学校の教科書には書かれていない、戦地での実情を伝える大変貴重な「兵事資料（へいじしりょう）」でもあります。

五線譜

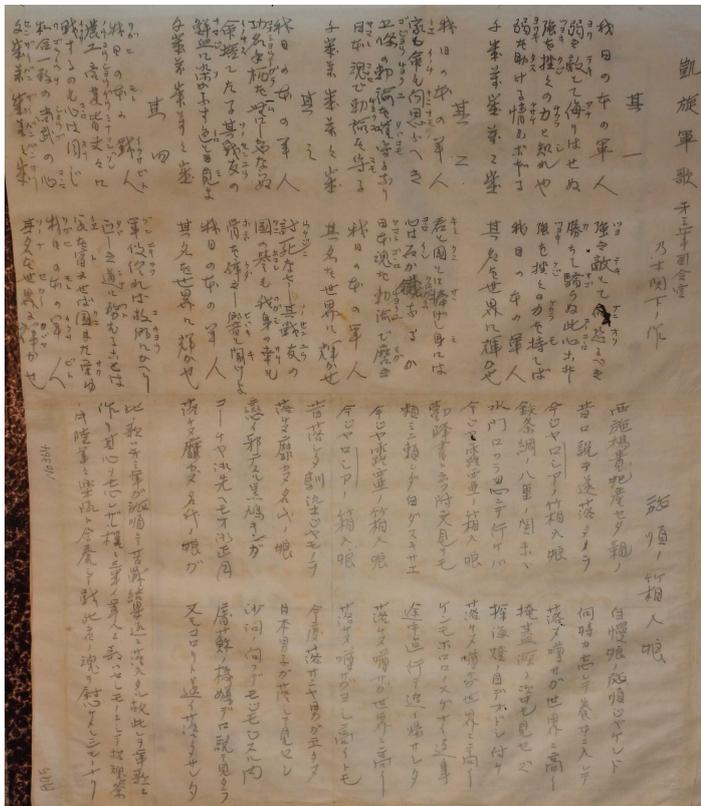


小林彦次郎先生宛軍事郵便 資料No.364 (2/3分冊 P196)

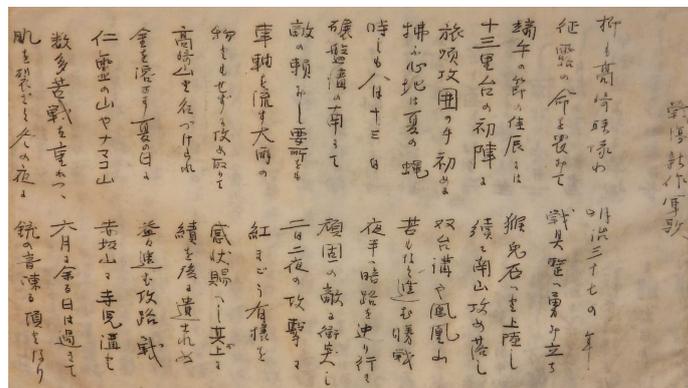
明治38年（1905）11月7日 封書 凱旋軍歌 乃木閣下ノ作 陸軍之楽長ノ作りしもの

【軍隊の音楽】

日本の幕末期には、鼓笛隊はありましたが吹奏楽隊は未だありませんでした。1863年の薩英戦争の時に、イギリス軍が戦死者13名を水葬する際に、葬送曲を演奏しました。これに感銘を受け、薩摩藩軍楽隊(通称薩摩バンド)が、イギリス陸軍第十連隊第一隊長の音楽指導により、明治初期にできました。



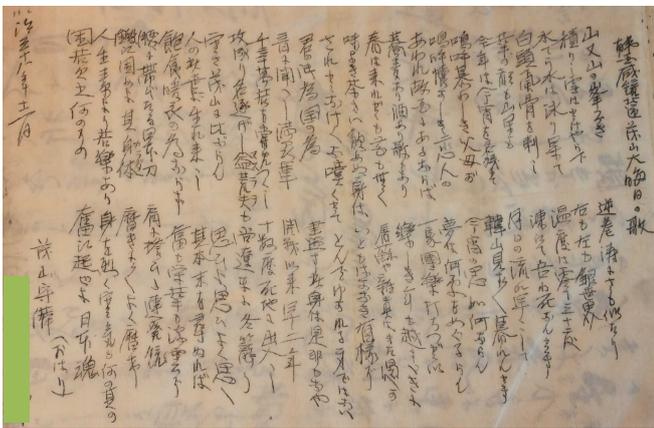
小林彦次郎先生宛軍事郵便 資料No.364 (2/3分冊 P196)
上段：凱旋軍歌 乃木閣下ノ作 下段：旅順の箱入り娘 (作詞 森林太郎)



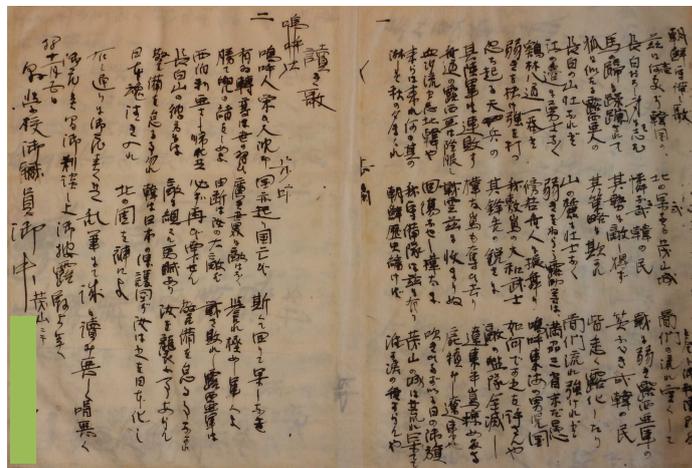
小林彦次郎先生宛軍事郵便 資料No.345 (2/3分冊 P149)

戦場新作軍歌

彦次郎宛の軍事郵便の中に、軍楽隊配属の兵士はいませんが、歌詞や、五線譜が送られてきています。戦地で歌われていた軍歌の中には、戦地で即興で作られたような歌もあり、極寒の異国で歌い自らを励ましていた様子うかがえます。



小林彦次郎先生宛軍事郵便 資料No.74 (1/3分冊 P72)
韓国威統北通床山大晦日の歌



小林彦次郎先生宛軍事郵便 資料No.53 (1/3分冊 P41) 朝鮮守備の歌

【文書館展示ご案内コーナー】

右の写真は、陸軍士官学校の疎開中に使用した食器です。

昭和20年(1945)当時に、陸軍士官学校馬術部の生徒たちが、北御牧や望月に、馬たちと一緒に疎開(そかい)していた時に使っていました。



※皿の中央に「土」のマークが入っています。

関連記事は、文書館通信14号にもあります。